

# NIT

NISSEKI TOKYO

2016  
Winter  
Vol.8



特集

## いの“ち”を救う！

献血からはじまる血液事業



04-05 新春のご挨拶

06-07 れっどくろす News&Topics

08-22 **特集**  
いの“ち”を救う！ 献血からはじまる血液事業

25 活動資金協力者（社）・団体のご紹介

26-27 RED CROSS HOSPITAL  
大森赤十字病院  
葛飾赤十字産院

28 行け！JDレポーター オカモト ★日赤とつげきレポ  
～日赤血液センター製剤部門編～

30-31 **新連載**  
Rediscovery TOKYO



(2階 受付 / 情報発信スペース)

新 東京都赤十字血液センター  
2015年12月14日より現地にて業務開始  
〒162-8639  
東京都新宿区若松町12番2号  
03-5272-3511 (代)



### 日本赤十字社の使命

わたしたちは、  
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、  
いかなる状況下でも、  
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。



# 新春のご挨拶



あけましておめでとうございませう。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。  
皆様には、平素より赤字活動への格別のご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返つてみますと、4月にネパールで大地震が発生しました。国内では、9月に台風18号等の大雨による大規模洪水が発生したことが記憶に新しいところです。

日本赤十字社東京都支部は、海外の災害への義援金募集を行うとともに、国内の災害に対しては様々な活動を迅速に行いました。9月の大雨災害では、日本赤十字社第2ブロック（関東甲越）支部全体で支援するため、東京都支部に広域支援本部を設置し、被災地へ災害発生直後から33日間、延べ217人の職員派遣を行うなど、避難所での医療救護活動や巡回診療、こころのケアなどの災害支援活動を行いました。皆様からのご支援に対し、あらためて御礼申し上げます。

さて、本年は、平成26年度から取り組んでいる「都民を守り、支える赤十字を目指して」をテーマとした日本赤十字社東京都支部の中期重点計画の最終年度となります。重点項目の一つである「大規模災害（大地震）に備える」を最重要課題と位置づけ、今後30年以内に70%以上の確率で発生すると言われている、「首都直下地震」が発生した場合にも対応できる体制の強化に取り組みます。また、大規模災害が発生した際の関係機関との連携をより一層図るとともに、企業等とのパートナーシップの充実に努めます。

こうした活動は、皆様からのご支援なくしては、成り立ちえませぬ。新年を迎え、職員一同、気持ちを新たに、赤十字活動の推進に、東京都支部を挙げて、全力で取り組んで参りますので、引き続き、皆様の変わらぬご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様にとりまして幸多い年となりますことを心から祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

日本赤十字社東京都支部

支部長 中津要一





上：現地拠点「きぬ医師会病院」の皆さんと  
右：綿密なミーティングで情報共有します  
下：拠点に展開したdERU内部の様子



## 茨城県を中心に大きな被害となった 台風 18 号等大雨災害救護活動

9月10日から11日にかけて降り続いた大雨により、鬼怒川が氾濫。茨城県常総市では甚大な浸水被害が発生しました。日本赤十字社第2ブロックでは、被災県である茨城県の支援にあたるため「第2ブロック広域救護支援本部」を東京都支部に設置し、広域的な支援体制で臨みました。

9月11日から10月13日に活動を終了するまでに現地に入ったスタッフはブロック全体でのべ217人。拠点での医療活動や巡回診療、被災者のこころのケアに努めました。こうした赤十字の活動を支えているのは、活動資金を協力してくださっている皆さまです。今後とも変わらぬご協力をお願いします。

(表) 活動チーム・要員の派遣数

医療救護班	18 個班 (13 病院)	のべ 217 人
医療コーディネーターチーム	14 チーム	
こころのケア要員	8 チーム	
現地災害対策本部および撤収、連絡調整要員		



寒い1日でしたが一生懸命呼びかけました

平成 27 年キャンペーンポスター



12月5日、新宿駅で東京都青年学生赤十字奉仕団メンバーが活動をPR

## NT information

### 大島 × 赤十字 × 福島

～「忘れない」写真がつなぐ記憶と記憶～

土砂災害から2年が経過した伊豆大島と、東日本大震災から5年となる福島の高校生が写真を通じて交流します。被災地で生活する高校生同士が交流することで何に気づき、考え、実行するか。

大島訪問：平成28年2月6日、7日  
福島訪問：平成28年2月20日、21日

### 日赤東京都支部で「減災セミナー」開催

通常は企業・団体からの要請に応じて実施している減災セミナーを一般の方向けに開催。災害が起こったらどうしたらよいか、どんな備えが必要なのかをお伝えします。

開催日：平成28年2月17日(水)  
会場：日本赤十字社東京都支部  
(新宿区大久保1-2-15)

### ルミネ the よしもとロビーズが

『献血大使』に就任！

ルミネ the よしもとで活躍中のお笑い芸人6組11人を、東京の献血を盛り上げる「献血大使」に任命しました。平成27年12月から平成28年3月までの間、新宿エリアの献血ルームを中心に、お笑いでお笑い、笑顔を広げます。期間中に献血ルームに来場すると、ルミネ the よしもとの招待券が抽選で当たるキャンペーンも！



ルミネ the よしもとロビーズの面々

## 東 京都赤十字血液センターの 新社屋竣工式が挙

12月8日(火)、新宿区若松町に完成した東京都赤十字血液センターの竣工式が挙行されました。

地上4階地下1階の建物は、周囲の景観に配慮したデザインとなっており、地域の方が憩える公園も敷地内に設置。

挨拶した加藤恒生所長は「平時から防災・減災意識の向上や健康増進のための活動を行いながら、地域の皆さんに信頼され、安心・安全を届けられる施設となるよう努めていきます」と語りました。



東京都赤十字血液センター 加藤所長

## 「寄付月間」を知っていますか？ 寄付・支援について考える機会に

12月は「寄付月間～ Giving December～」だということを知っていますか？国内の寄付に関わる諸団体が集まり、寄付の大切さと役割について考え、関心を寄せ、行動するきっかけとなるよう平成27年から始まったムーブメントです。

そんな12月には、日本赤十字社ではNHKと共同で昭和58年から「海外たすけあいキャンペーン」を展開して、世界で支援を必要としている人への寄付を募っています。東京都支部では、毎年学生や企業の有志が街頭に立って寄付を呼びかけるなどの取り組みを行っていますが、平成27年はさらに学生中心のイベント、「海外たすけあい赤十

字トークセッション」を開催しました。12月16日に東京都支部の会議室で開催されたイベントでは、第一線で活躍している日赤本社国際部の職員や、赤十字国際委員会(ICRC)の駐日事務所の職員が参加。学生とのトークセッションでは活発な意見が交わされました。

「学生に求められているものは何ですか、今学生は何をするべきですか」という質問にお2人は「まずは国外の情勢を意識を向け続けることですね」と回答。改めて考えさせられたのではないのでしょうか。学生を含む参加者が改めて世界の問題や寄付、支援について考え、行動に移せる機会となったならばと思っています。



赤十字の国際活動について語った職員

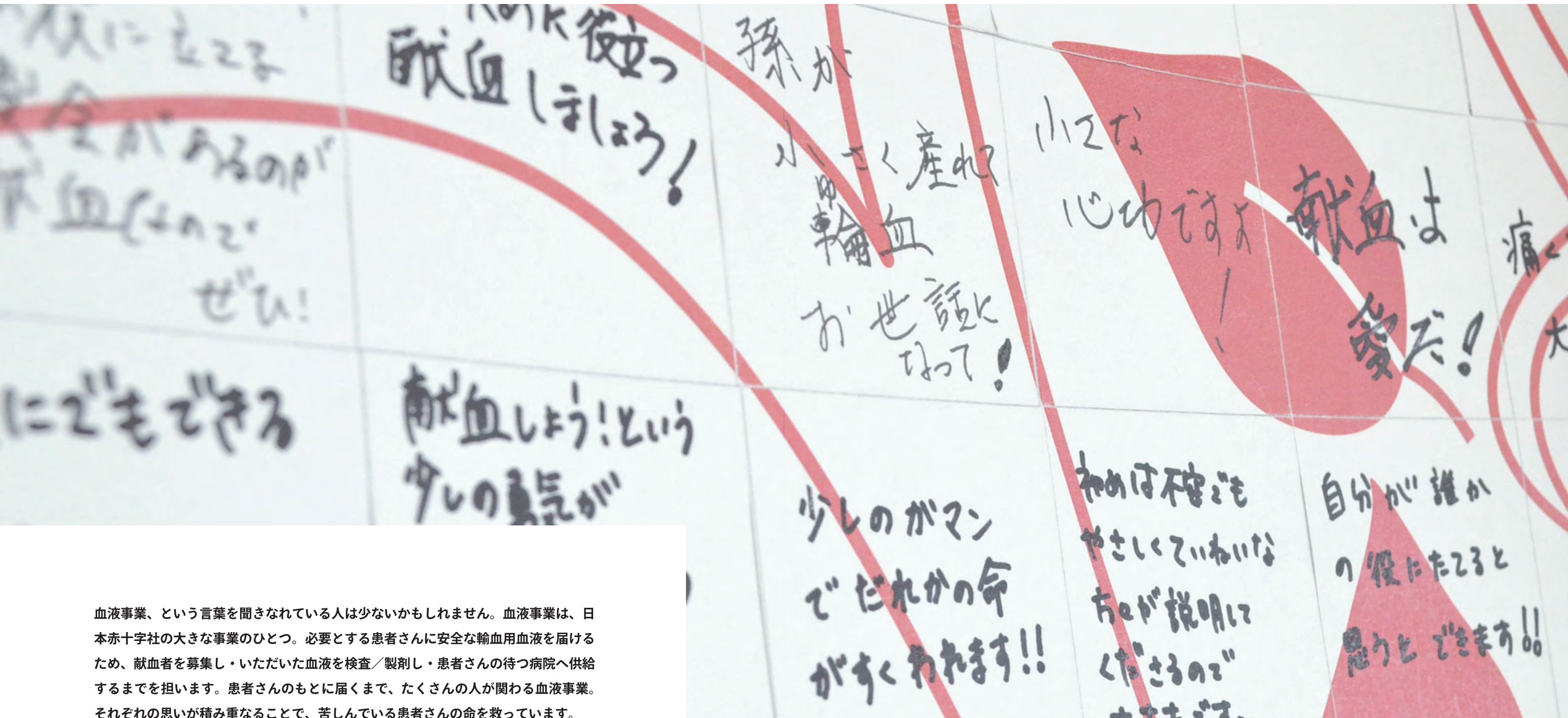


学生からは熱心な質問が



# いの“ち”を救う！

献血からはじまる血液事業



血液事業、という言葉聞きなれている人は少ないかもしれません。血液事業は、日本赤十字社の大きな事業のひとつ。必要とする患者さんに安全な輸血用血液を届けるため、献血者を募集し・いただいた血液を検査／製剤し・患者さんの待つ病院へ供給するまでを担います。患者さんのもとに届くまで、たくさんの方が関わる血液事業。それぞれの思いが積み重なることで、苦しんでいる患者さんの命を救っています。

輸血を受けたことのある方・献血にご協力くださった方の声が変わるM+(ミークロス) station / URL: <http://www.mecross.jrc.or.jp>  
写真：2014年12月に学生ボランティアが献血者の声を集め作成したメッセージアートの一部



「もっとたくさんの人に献血を知ってほしい！」

身近に輸血を経験したことのある人や献血ルームに通っている人がいると、献血に前向きな気持ちを抱ける人が多い。高原弥詞くんとお母さんもそのひとりです。

広がれ、献血。<sup>みこと</sup> 弥詞くんの＜伝える＞活動。



「献

血には何度も行ったことがありましたが、そのときは自分の献血した血液が輸血用の血液になって患者さんに届く、というところまで想像がおよんでいませんでした。」

和可子さんは以前からよく献血に行っていました。弥詞くんと一緒に血液センターの見学に行ったときに初めて、献血された血液が輸血用の血液になっていくのが理解できたといいます。「献血と輸血って頭の中ではなかなか繋がらなかったんですが、実際に血液バッグがいろんな検査や製剤の工程を流れていくのを見て、私の血液もこんなふうには患者さんに使われる準備をしているんだ、と実感することができました。献血しているときに、血液バッグに入るところまでいつも見ているはずなんですけれど...。」

弥詞くんは和可子さんが、献血について知りたいと思ったきっかけは、血液センターの見学より前に遡ります。「7年前に緊急手術を受けて、そのまま1年間入院生活を送りました。」弥詞くんが献血を広めている理由は、自身が輸血によって命をいただいた経験からでした。「僕のように献血で助かる人がいる。そのことを知ってもらいたい。」

弥詞くんは小学4年生のときに「水頭症」と「脳腫瘍」という脳の病気を併発し、入院・手術を経験しました。半年前くらいから突然転んでしまったり、手がうまく動かなくなったりという不調が続き、大きな病院でCTの撮影を受けると即、救急車で別の病院へ搬送されました。その時点で既に一刻を争う状態でした。「そのとき、ランドセルを背負っていたことだけは、はっきりと覚えています。」

弥詞くんは病院に行ったあと、そのまま学校に登校するつもりでした。学校が大好きだった弥詞くん。その日から1年間も登校できないなんて思ってもみないことでした。

緊急手術は14時間にもおよび、手術のあとには話すことも身体を動かすこともできなくなって、食事も口から取ることができませんでした。現在も手術前のようにすらすらと話したり、杖なしで歩くことは困難です。しかし、そんな弥詞くんが懸命に献血を広めてくれるのは、献血してくれた人によって、今の元気になった自分があるから。自分がそれを伝えることによって、献血に協力してくれる人が増えれば、同じように病気を闘っている人が助かる、ということを知りも知っているからです。



学校の文化祭での展示風景。たくさんの方々が来てくれた。直筆のメッセージも。



たかはら みこと 高原 弥詞くん / わかこ 和可子さん (母)

「横浜 Leaf 献血ルーム」で取材に応じてくれたお二人。神奈川県内や都内のいろいろな献血ルームを巡っていると教えてくれた。

「献血に、ご協力お願いします！」 駅前で学生ボランティアの人たちと一緒に献血の呼びかけをするのは、神奈川県内に住む高校2年生の高原<sup>たかはら</sup>弥詞<sup>みこと</sup>くん。弥詞くんは今年度、自身が通う高校の文化祭でも献血についての展示を行いました。展示にはたくさんの方が訪れ、感じたことをメッセージに残してくれた人も。現在は学校に献血バスを呼べるように奮闘中とのこと。弥詞くんの活動は、少しずつ着実に献血を広めています。

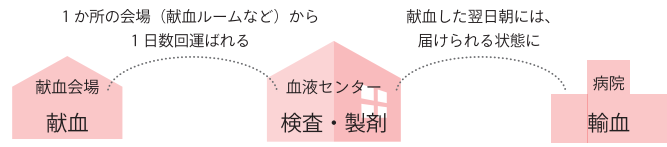
「もっとたくさんの人に献血を知ってほしい！」

弥詞くんの言葉には、全く迷いがありません。なぜ？そんなに、献血を広めることに一生懸命なのでしょうか。弥詞くん、弥詞くんのお母さんである和可子<sup>わかこ</sup>さんに、その思いを伺いました。









献血された血液が患者さんに届けられるまで

献血された血液を他の人に輸血することは、臓器移植と同じです。血液には有効期間があり、最も短いもので採血後4日間しか持ちません。献血されてから患者さんが待つ病院にお届けするまで、いかに早く正確に

検査・製剤を行うかが大切です。そのため検査と製剤は並行して行われており、検査もあらゆる検査を同時並行で行っています。それにより献血した翌日朝には輸血用の血液として病院に届けられる状態になっています。



最新の検査で、患者さんの命と善意の気持ちを守る。



### 血液型検査

みなさんがよく知っているA/O/B/ABの血液型。輸血をする際に、患者さんと異なる型の血液を輸血してしまうと、命に関わる重篤な副作用が発生する可能性があります。そのため、A B O式の血液型を判別するだけでも6種類もの検査を行っています。

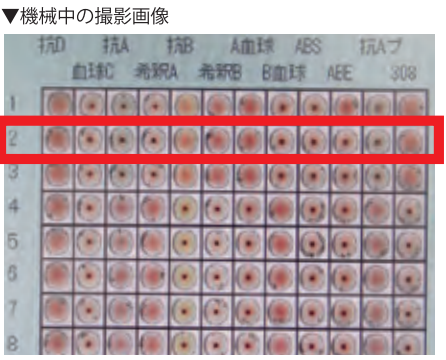
血液型検査は、機械が一人ひとりの血液に試薬を加え、その画像を撮影・分析することで判定しています。30分で約300人分の血液判定ができるこの機械は、世界最高水準の処理能力を持っています。



抗A・抗B試薬を入れると…

A型	抗A	あり	抗B	なし
	抗A	なし	抗B	あり
B型	抗A	なし	抗B	あり
	抗A	あり	抗B	なし
O型	抗A	なし	抗B	なし
	抗A	あり	抗B	あり
AB型	抗A	あり	抗B	あり
	抗A	なし	抗B	なし

反応あり 反応なし



例えば2番の方の血液は…抗A試薬の反応は「なし」、抗B試薬の反応は「あり」。よって「B型」であることがわかります。人の手で検査していた時代も同じ方法を用いていましたが、検査の速さ・正確さは現在の機械の比になりません。私が出張していたラオスのように、海外ではまだ人の手で検査しているところもあります。

わたしたちが働く検査部門は、「輸血を受ける患者さんの命を守ること」が役割。そのため、輸血用の血液としての検査基準は非常に厳しく、献血者自身の健康状態に問題がなくても、輸血用の血液としての基準を満たさない場合もあります。その一方でわたしたちは、献血者のみなさんの善意を患者さんに届けるという大切な役割も担っています。東京の血液センターで受け入れている血液は1日約3000人分。日本全国の献血者の約4分の1をここ東京で検査しています。どうやってそれを可能にしているのか、今回はその一部をご紹介します。

日本赤十字社 関東甲信越ブロック血液センター検査部長

suzuki yoshiharu 鈴木 雅治



1984年に日本赤十字社に入社後、現在に至るまで血液検査部門に携わる。海外の赤十字社への技術協力にも参加しており、取材日の直前にはラオスへ出張していた。



## 保管検体

献血された全ての血液の保管検体は、採血後 11 年間冷凍保存されます。輸血を受けた患者さんに輸血後感染症の可能性がある場合、過去に遡って調査できるようにするためです。この検体を保管するために、日本国内に大きな保管庫が3か所あります。



▲建物自体が巨大冷蔵庫のような福知山の保管庫

現在、東京で検査された血液の保管検体は、一時的に東京の血液センターに保管された後、北海道または京都の福知山にある保管庫に輸送されます。検体は-30℃で冷凍保存され、バーコード管理によって必要な検体をすぐに探し出すことができます。現在日本には約 6000 万本の保管用検体が保管されています。



必要な検体はロボットアームで取り出せるように管理されている



▲箱の中の保管検体

## >>> 輸血用血液の検査にける想いとは？

輸血用血液はまさに「患者さんの命がかかっている」ものです。そしてそのもととなる血液は、献血していただくことでしかまかなえません。わたしたちが日々検査しているのは 1 本 1 本の試験管ですが、そこには一人ひとりの献血者がいます。1 日3000 本の検査をしているということは、3000 人分の献血者の思いを預かっているということ

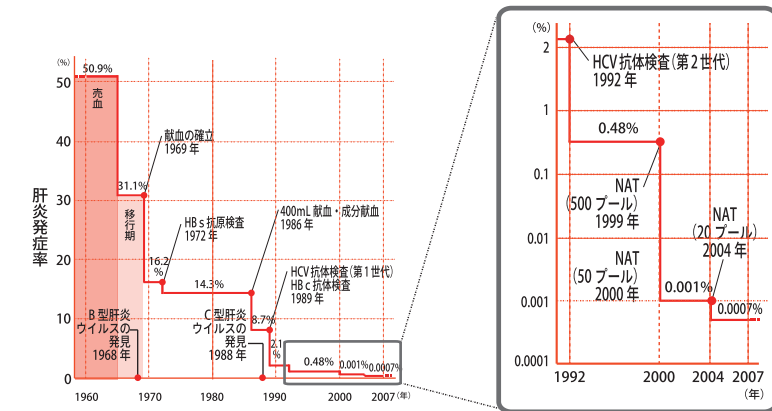
です。iPS 細胞などから、血液を人工的に作り出す研究も進んできてはいますが、輸血用血液を造り出すことはまだまだ現実的ではありません。献血者というボランティアがいなければ、輸血用血液が患者さんに届くことはないのです。そのことへの感謝を忘れずに、わたしたちはこれからも責任ある検査を続けていきます。



## 核酸増幅検査

ウイルスに感染すると血液中に「抗体」ができますが、抗体ができるまでに時間がかかるため抗体が検出されず検査をすり抜けてしまう期間があります（ウインドウピリオド）。その対策として導入されたのが核酸増幅検査（NAT）です。

輸血用血液の検査の歴史は、輸血後感染症との闘いとも言えます。通常の感染症検査はウイルスが体内に入ったことで新たにつくられる「抗体」の有無を検査しますが、NAT は「ウイルス自体」を約 1 億倍に増幅させて検出する方法。NAT 導入後、輸血後肝炎発症率はより減少しました。



◀1999年の導入時には、500プール NAT (500人分をまとめて検査)であった。その後50プール、20プールとプールサイズを減少し、より検出感度を高めてきた。そして…

昨年8月に個別 NAT を導入。一人ひとりの検体を個別に検査することで、20プール NAT の頃よりも 20 倍の検出感度となりました。個別 NAT が導入されてから現在まで、輸血後感染症の報告は 1 件もありません。



◀個別 NAT 用核酸増幅検査機 PANTHER システム (ノバルティス社)

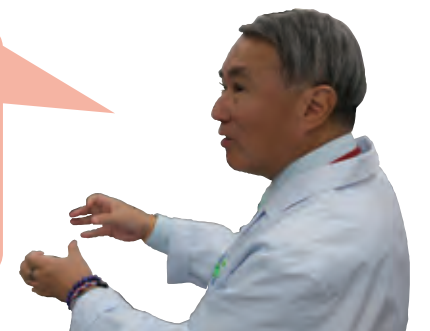


▲別の機械で検体を開栓・移載



▲12時間かけて約500人分を検査する

個別 NAT 導入は、世界的に見ても現在実施しうる最大限の安全対策だと言えます。それでもウインドウピリオドを完全になくすことはできません。最大限に短縮された今でも、B型肝炎で 34 日間、C型肝炎で 23 日間など、なくせないウインドウピリオドがあります。検査技術がここまで発展しても、献血者のみなさん一人ひとりの責任ある献血が不可欠です。





1995.....2003

2012.....2017

第1期支援

第2期支援

第1段階 第2段階 第3段階

血液の品質保証機能と血液事業の運営管理機能の強化

日赤が目指すのは、ただ単に資金や物資の提供ではなく、最終的にその国でその事業が自立できること。そのため、段階を設定して着実な支援を進めています。



第1期支援

支援を始めたころ、ラオスの人々には「献血」という概念がなく、輸血用血液のうち献血によるものは10%未満しかありませんでした。献血を知らない人々から血液を集めるということは大変難しく、献血を実施する場所に着くと、まず講堂や校庭で血液の知識や献血の必要性を30分ほど説明し献血希望者を募りました。

日赤の開発要員が現地の職員とともに、どうしたら1人でも多く協力してくれるのか悩みながら懸命に進めた結果、2003年には首都ビエンチャンで輸血用の血液を100%無償献血により確保できるようになりました。1990年には、年間5人しかいなかった献血者がここまで増えたのは、現地の職員とラオスの国民の協力あってこそでした。



第2期支援

第2期の支援では、輸血用血液の安全性をより向上させるため、採血から血液製剤製造までの手順書を作成。年に数回技術職員を派遣し、手順書の運用状況についての調査・アドバイスを引き続き行っています。

日本での研修



1995年～2015年までは毎年ラオスからの研修生を受け入れています。日赤は2015年までに22の国と地域から410人の研修生を受け入れ、過去の研修生の中にはその国の血液事業の中核を担っている職員も多くいます。



日赤が「アジア地域赤十字・赤新月血液事業シンポジウム」をタイ赤十字社との共催で定期的で開催し、アジア地域の安全な血液の確保に貢献したことが評価され、2014年に「国際輸血学会賞」を受賞しました。(写真右から2人目が田所憲治血液事業本部長)

血液事業の海外支援

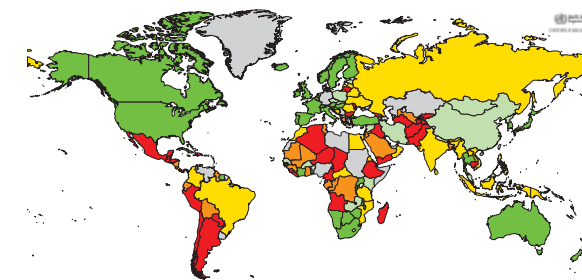
ラオスの血液事業の支援には、アメリカ・オーストラリア・ドイツの赤十字社なども参加しています。過去に日赤が血液事業を開始したときにも、アメリカ赤十字社の援助を受けました。赤十字は世界的なネットワークを生かし、お互いを支援し技術の向上や経験の共有をしています。ラオスでの第2期支援は2017年に終了予定ですが、それまでにラオス赤十字社が自らの力で安全な血液を患者さんにお届けできるよう、日赤では現地の実情に合わせた支援に努めていきます。



日赤の“技術”が世界を変える！



現在日本では、輸血用血液はすべて100%無償の献血でまかなっています。しかし、世界的に見るとそのような国は多くありません。日本も1964年に献血による血液確保体制が確立されるまでは、家族や知人に血液をもらうしかなかった時代もあるのです。そのような歴史を経て日赤は、100%無償献血によって安全な血液製剤の供給を目指す海外の国の支援を実施しています。今回紹介するのは、1995年から長期に渡って支援を実施している国、ラオス。日赤のサポートがその国の輸血の歴史を変えています。



無償献血の国別割合 (2008年・世界保健機構作成)  
 ※22か国は2006年のデータを使用  
 2014年時点では、90%以上を自発的な無償献血で賄っている国は145か国中約50%、その他の50%は家族や知人からの供血、もしくは売血に依存している

ラオスへの支援の背景 — background —

●輸血用血液が安定して供給できていない  
 輸血のほとんどが病院での患者さん家族や知人からの「枕元輸血」か「売血」。血液センターを訪れる献血者は、年間5名程度だった。(1990年代初頭)

●不十分な輸血前検査  
 輸血に使われる血液の検査項目は各病院任せで、HIV検査の実施さえ不徹底。また、検査するための技術も不十分な状態だった。

●血液事業を政府からラオス赤十字社に委託  
 そのような状況から、1990年にラオス保健省が首都ビエンチャンにある血液センターの運営をラオス赤十字社に委託。1995年から日赤が支援を開始。



「献血を通して、いろんなつながりを感じます。」

家族の存在が、献血のきっかけだったという平木さん。ひとりの献血者としてどんなことを思っているのか伺いました。

## 献血で気づいた、〈ありがとう〉の連鎖

——はじめての献血のきっかけは人それぞれだと思うのですが、平木さんはどんなきっかけがありましたか？

私が生後11か月のころ、住んでいたアメリカで家族旅行へ出かけたとき、乗っていた車が重大事故に遭いました。ちょうどグランドキャニオンの近くを走っていたのですが、タイヤが落ちそのままの斜面を車が転がり落ちて…。助手席に座っていた当時6歳の姉が窓ガラスを突き破って外に放り出され、500針縫う大怪我を負いました。外傷がひどく、かなりの出血があったそうです。そのときに大量の輸血を受けたことで、姉の命は助かったんです。

——そのことがきっかけで献血を知ったんですね。

私は当時の記憶はないですが、小さいころから家族の中ではそのことが当たり前に出ているので、自分の記憶のように残っています。私以外の家族には事故のときの傷痕などが残っているので、幼いときからお互いで助け合い

ながら過ごしていましたね。

私が高校生のときに、兄が「献血してきたんだよ！」と献血カードを見せてくれて、それで姉を助けてくれた「献血」というものをはっきりと知り、初めて献血ルームに行つて献血。もちろん不安もありましたが、やってみると意外と簡単で、やっと私も献血をすることができたという気持ちのほうが強かったです。献血して実際自分の血液がバッグに入っていくのを見ると、これが輸血となって誰かを助けるんだ！とダイレクトに感じましたね。

今、姉は海外に勤めているのですが、献血したときには「献血してきたよ！」と報告します。輸血を受けたことのある姉は献血ができないので、もどかしい部分もあるようですが、報告するとうれしそうにしてくれて感謝が伝わってきます。

——お姉さんの輸血や献血が英理子さんの考え方を変えた部分がありますか？

最近、叔母が心臓の手術を受けて、その後定期的に何度も輸血を受けているんです。今まで、献血のときにはなんとなく過去の姉に捧げているような思いがありました。結局それがめぐってこんなふうにつながるものなんですね。アメリカにいたときの文化の影響もあるかもしれませんが、母がよく言っていた言葉に「pay it forward」という言葉があります。自分が受けたありがたかったことは次の人にいいことをして返そうというのですが、自分が今している「献血」という行動はまさにその言葉のとおりだなと…。実際に誰に届くかはわからないけれど、この行動は病気や怪我で苦しんでいる誰かを助けていることですね。そう思って続けていくと今回の叔母の輸血につながりたりするので、この行動は必ずめぐりめぐっていく実感があります。

だから私はこれからも献血を続けたいと思っています。



ひらき えりこ  
平木 英理子 さん

お話を伺ったのは新宿にある献血ルームギフト。「以前は新宿東口献血ルームによく通っていました」

1年間に輸血を受ける人の人数は、東京都内だけで約13万人。

日本人は一生の間に男性は1/3、女性は1/4が輸血を受けるという推計報告もあります。\*

※2009年発行 日本輸血細胞治療学会誌より



最近の家族全員での集合写真。姉の香織さんも元気に過ごされている



事故から1か月たったころに兄弟で





● SHINJUKU



新宿東口

新宿区新宿 3-17-5  
カワセビル 6階  
**03-5269-1431**



新宿ギフト

新宿区新宿 3-18-1  
丸井新宿東口ビル 9階  
**03-6380-0331**



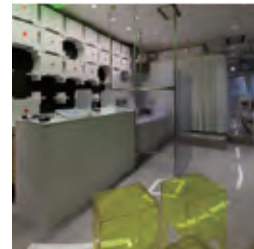
都庁

西新宿 2-8-1  
都議会議事堂地下 1階  
**03-3343-2231**



新宿東口駅前

新宿区新宿 3-25-1  
ヒューリック新宿ビル 10階  
**03-6380-0635**



新宿西口

新宿区西新宿 1丁目  
西口地下街 1号  
**03-3348-1211**

● IKEBUKURO



池袋い〜すと

豊島区東池袋 1-1-4  
タカセセントラルビル 8階  
**03-3988-9000**



池袋ぶらっと

豊島区東池袋 1-12-8  
フジキビル 3階  
**03-5950-3000**

● OSHIAGE



feel

墨田区押上 1-1-2 東京スカイツリー  
タウン・ソラマチ 10階  
**03-6456-1972**

● AKIHABARA



アキバ

千代田区外神田 1-18-19  
新秋葉原ビル 1階  
**03-5298-2811**



akiba:F

千代田区外神田 1-16-9  
朝風二号館ビル 5階  
**03-3251-8201**

● YURAKUCHO



有楽町

千代田区有楽町 2-10-1  
東京交通会館 6階  
**03-3213-8666**

● SHIBUYA



ハチ公前

渋谷区道玄坂 2-3-2  
大外ビル 6階  
**03-3476-2880**

● KICHIJOJI



吉祥寺タキオン

武蔵野市吉祥寺本町 1-15-2  
ダイヤパローレビル 8階  
**0422-21-9000**

● TACHIKAWA



立川

立川市曙町 2-7-17  
丸井・井上共同ビル B1階  
**042-527-1140**

● MACHIDA



まちだ comfy

町田市原町田 6-3-3  
町映ビル 7階  
**042-732-8494**

■ 献血会場に関するお問合せ先

東京都赤十字血液センター：03-5272-3511（代表） ※ 平日 9:00 - 17:00



■発行・編集・デザイン/日本赤十字社東京都支部

〒169-8540 新宿区大久保1-2-15 Tel: 03-5273-6747 (総務部企画課)

※本誌掲載の記事・写真・イラストなどの無断複写(コピー)、複製(転載)を禁じます。

※本誌に掲載されている情報は、発行に伴う情報収集時点での情報を含みますので、

その後内容に変更が生じる場合もありますので予め留意ください。

個人情報の取り扱いについて

いただいた個人情報はプレゼントの発送および当支部からのご連絡のみに使用します。  
その他、日本赤十字社東京都支部ホームページのプライバシーポリシーをご覧ください。

ホームページ: <http://www.tokyo.jrc.or.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/redcrosstokyo>

NTは年4回発行(4月・7月・10月・1月)

日本赤十字社東京都支部に1回3万円以上ご寄付いただいた方に郵送でお届けしています。また、都内の赤十字病産院および献血会場でも配付しています。

※今号の「RED CROSS HOSPITAL 武蔵野赤十字病院」は休載します。

応募・問合せはNT編集部まで

〒169-8540

新宿区大久保1-2-15

Tel: 03-5273-6747

Mail: [nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp](mailto:nissekitokyo@tokyo.jrc.or.jp)

前号のプレゼント当選者発表

A賞：カフェケトル	B賞：3DPOCHI	C賞：日赤防災福袋
森村久代さん(和光市)	川井真由美さん(大田区) 今泉伸一郎さん(越谷市) 二宮博文さん(北区) 酒井智子さん(東久留米市)	赤間香織さん(北区) 安田清さん(北区) 杉野一成さん(町田市) 小松忍さん(江戸川区) 渡邊利枝さん(杉並区) 北村裕美子さん(中野区) 枝窪孝義さん(立川市) 吉川寛さん(文京区) 齋藤華子さん(品川区) 浅井耕司さん(練馬区)

(順不同)

今号のプレゼント

NT編集部では、NTに関するご意見・ご感想をお待ちしています。

①氏名 ②住所 ③性別 ④年齢 ⑤連絡先 ⑥本誌入手場所 ⑦本誌の感想  
⑧パズルの答え ⑨希望するプレゼント番号を明記し、NT編集部まで  
ご応募ください。正解者の中から抽選でプレゼントが当たります!  
(プレゼントの詳細はパズルページをご確認ください)

応募締切は平成28年2月29日。当選者は次号誌面上で発表します。

なお、NT Vol.7 最終ページにおいて、プレゼント応募ページへの表記に誤りがあり、読者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。申し訳ございません。

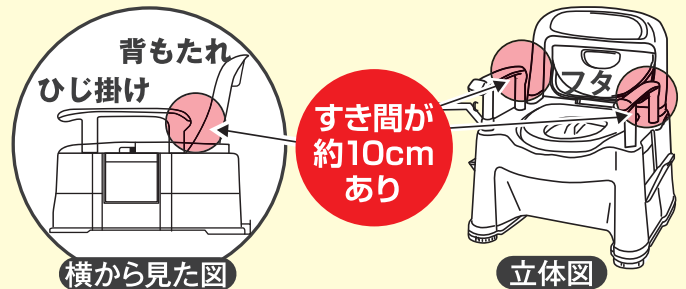
<広告欄>

セキスイ製 ポータブルトイレ

無償交換  
のお知らせ

対象製品確認方法

ひじ掛けと背もたれにすき間があります



【製造・販売元】積水ライフテック(株)

お問い合わせ 積水化学工業株式会社 ポータブルトイレ回収窓口

0120-011-578 (無料) 受付時間 9:00~19:00  
※土、日、祝日、年末年始を除く

FAX 0120-231-756(無料) E-mail [products\\_i@sekisui.com](mailto:products_i@sekisui.com)

「住所、氏名、電話番号」を書いて送信してください。

所在地 〒105-8450 東京都港区虎ノ門2-3-17

※お客様からご提供いただきました住所、氏名、電話番号などの  
個人情報は本件の対応以外には使用いたしません

SEKISUI  
【製造・販売元】  
積水ライフテック(株)



# 赤十字は、 ジミチです。

「赤十字の活動は広すぎてわかりづらい。  
と言われることがあります。」

赤十字の活動は、国や状況、理由、活動の種類を  
限定しません。対象は全世界の苦しむ人々です。

確かに、エリアや対象となる人々を限定して緊急性  
を訴えるほうが社会の目に届きやすく、理解され  
やすいかもしれません。

しかし、赤十字は世界最大の人道機関。

その組織力があるからこそできることがあります。

緊急時の支援は当然のこと、すべての脅威から  
人々を守るために全世界で活動しています。

もちろん、国内でも医療や献血、そして大災害に  
対する取り組みなど、皆さまの身近なところで  
活動しています。

命を守るために必要であれば、スポットライトが  
当たることのないジミチな活動も大切にする。

これが赤十字のジミチです。

—— 皆さまからお寄せいただく活動資金は身近なところでも活用されています。 ——

## 例えば、

地域の防災力を向上するために以下のような活動を行っています。

### ¥5,000 で

青少年に対して  
災害学習プログラムを開催。



体験用の教材や講師派遣にかかる  
交通費等の費用。地域における  
防災・減災の担い手として期  
待される青少年を対象に年間  
100件を超える実績があります。

### ¥10,000 で

災害時に活動する  
救護ボランティアを1人育成。



災害救護に関する知識、技術  
を習得するための研修や現地  
派遣を想定した訓練等にかか  
る費用。地域防災におけるリ  
ーダーとしての人材育成にも  
つながっています。

### ¥100,000 で

自主防災組織への支援を通じて  
地域の防災力を向上。



自治会等に対して傷病者対応の  
ための資機材を贈呈し、それら  
の使用方法やその他防災・減災  
のノウハウを伝達するセミナー  
を実施するなど、総合的な支援  
を行います。

### ¥200,000 で

地区に大型の炊出し釜を  
1台配備。



災害時にライフラインが停止し  
た際に地域住民に対して炊出し  
を行うための資機材を配備して  
います。また赤十字の強みであ  
る地域に根差した組織基盤によ  
りマンパワーを確保します。

ジミチな活動が、必ず命を守ることにつながる。この思いを大切にしています。



## 活動資金協力者（社）・団体のご紹介

皆様のご協力により日本赤十字社の活動は支えられています。  
活動資金のご協力、誠にありがとうございました。

※10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了解いただいた個人、法人および団体等を掲載しています。

活動資金協力に関するお問合せは  
東京都支部 振興課 03-5273-6743 まで

### ●千代田区

(一社) 霞会館	300万円
(株)日本翻訳センター	33万円
(株)朝日写真ニュース社	30万円
翔和建物(株)	20万円
株式会社トキワ	11万円
中日工業(株)	10万円

### ●中央区

小泉 久夫	10万円
田村 市兵衛	10万円
東京葛飾ライオンズクラブ	130万円
東京新宿東ライオンズクラブ	10万8000円
東京豊新ライオンズクラブ	10万8000円

### ●港区

田子 たき	900万円
(株)インサイド・アウト	100万円
旭商船(株)	10万円
(株)日ノ樹	10万円
(株)真館物産	10万円

### ●新宿区

横村 武宣	100万円
東京蒼天ライオンズクラブ	15万円
東京新宿ライオンズクラブ	10万8000円
(株)廣和技研	83万円
(株)アイザワ	10万円
(株)OEC	10万円
(株)風スピリッツ	10万円

### ●文京区

土屋 實	50万円
クレアドバイザーズ(株)	10万円

### ●台東区

中央エレベーター工業(株)	10万円
---------------	------

### ●墨田区

角谷 かつみ	30万円
(株)ハウセット	55万円

### ●江東区

スズキテクノス(株)	20万円
------------	------

### ●品川区

鈴木 郁子	100万円
金森 利幸	50万円
菅野 鴻三	27万5千円
藤田 安正	10万円

### ●目黒区

高井 亮治	10万8千円
末武 國弘	10万円
(株)システムサイト	10万円

### ●大田区

紺野 博	33万円
丸十オリエント	50万円
(株)高梨油気圧	10万円

### ●世田谷区

谷村 将光	100万円
小林 賢治	50万円
西村 好胤	30万円
太田 克人	20万円
田中 初枝	10万円

### ●渋谷区

小川 昌美	110万円
田中 國清	51万円
(株)おとやトレーディング	260万6925円
花菱不動産株	14万円
(株)ワタナベエンターテインメント	10万円

### ●杉並区

金澤 昭子	30万円
匿名	27万5千円
石井薬品(株)	10万円
(有)多田美波研究所	10万円

### ●豊島区

小鮎 慶子	50万円
山栄管財(有)	20万円
日本歯科大学五十会一同	22万9708円

### ●北区

吉岡 庄吉	20万円
(株)マエノ薬局	126万6410円

### ●板橋区

竹内 文隆	500万円
長尾 トモ子	10万円
宮川 美知子	10万円
(医) 社団誠志会病院	40万7704円
(株)つくし工房	10万円

### ●練馬区

影山 僊一	100万円
横山 浩之	60万5千円
影山 洋子	50万円
内田 正弘	10万円
トレンドイース(有)	10万円

### ●足立区

鈴木 勇	10万円
(株)江北ゴム製作所	10万円
三和産業(株)	10万円

### ●葛飾区

小倉 茂	20万円
須藤 好雄	10万円
新日本電興(株)	10万円

### ●江戸川区

(有)小川オートサービス	10万円
--------------	------

### ●八王子市

高野 重信	200万円
-------	-------

### ●立川市

小島 嘉一郎	20万円
(宗)真如苑	1000万円
立川市赤十字奉仕団(楽市)	10万3600円

### ●武蔵野市

網野 弥生	30万円
齋藤 八郎	10万円

### ●三鷹市

河合 直子	27万5千円
柿澤 康子	11万円

### ●府中市

大内 直美	10万円
霜田 美樹雄	10万円

### ●町田市

武川 節	10万円
三和建装(株)	10万円

### ●小金井市

鳥居 久直	65万円
清水 義一	10万円

### ●小平市

大野税務会計事務所	10万円
●小平市	
小田 みどり	10万円

### ●国立市

関 儀和	100万円
------	-------

### ●西東京市

新井 節子	50万円
三和建装(株)	10万円

### ●東久留米市

中国健康法普及協会	40万円
東久留米駅前商店会	11万円

### ●神奈川県

(株)テクネ計測	50万円
----------	------



# 地域に密着した病院として

## 大森赤十字病院

- 所在地 〒143-8527 東京都大田区中央 4-30-1
- 連絡先 Tel 03-3775-3111(代表) Fax 03-3776-0004
- 休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始(急患は随時)
- 病床数 344床(一般326床、ICU-CCU6床、HCU12床)

● 当院開催の医療講演会をご利用ください

**大** 森赤十字病院では、地域住民の健康維持・増進に貢献するため、患者さんと住民の方を対象とした医療講演会を開催しています。映像を使ったり実際に体を動かしたりして楽しみながら、当院の取り組みや最新医療の紹介、病気の予防・対策等について学んでいただくことで、参加された方々が「少しでも病気にならないために何をすればいいのか」、「なった時にはどうしたらいいのか」などを知る機会を提供しています。

### 講師は当院のスタッフ

**講** 師を務めるのは各診療科医師のほか、認定看護師、薬剤師、リハビリテーションスタッフ、検査技師、管理栄養士など様々な職種スタッフが務めています。講演のテーマも、認知症や脳卒中、糖尿病などの昨今注目度の高い疾患から、熱中症や花粉症、インフルエンザ、禁煙など身近な病気・健康情報まで、多岐にわたっています。

また、開催時期も工夫しており、スギ花粉対策、ノロウイルス対策といった季節性疾患については、予防対策として少しでも皆さまの役に立つよう、流行する前に講演会を開催しています。

### 地域との協力関係をさらに深めて

**昨** 年度はこうした取り組みにより、年間で15回の講演会を開催、289人の方に参加していただくことができました。

平成27年度については11月末時点で7回、137人の方が参加しています。さらに新しい取り組みとして、これまで実施してきた院内での医療講演に加えて、近隣の信用金庫各支店を会場にした講演会(6回・97人・11月末時点)も実施しています。

この取り組みにより、当院にわざわざ足を運んでいただかなくとも、多くの方に病気や医療について知っていただく機会を提供できるようにになりました。

今後も、積極的に地域住民の皆様役に役立つ情報を発信していきたいと思っています。

(表) 年度内に開催予定の主な講座

時期	内容
1月	食品表示の賢い見方、他
2月	おくすり講座、他
3月	白内障について、他

※ あくまで予定であり、変更の可能性もあります。詳細は大森赤十字病院 HP をご覧ください。



講師を務めることで、スタッフのレベルアップにもつながります



一緒に体を動かすことも、楽しく学んでいただけます



# 知っていますか？ マタニティ・ブルーズ

## 葛飾赤十字産院

- 所在地 〒124-0012 東京都葛飾区立石 5-11-12
- 連絡先 Tel 03-3693-5211(代表) Fax 03-3694-8725
- 休診日 日曜、祝日、年末年始
- 病床数 113床(産婦人科68床、NICU・GCU等45床)

## ●これから出産を迎える方とそのご家族に

**葛** 飾赤十字産院では、年間およそ2000件の出産があります。それぞれの出産に一つとして同じものはありませんが、少なくない方に共通してみられることもあります。例えば、妊娠中や出産してから数か月間に、心のバランスをくずしてしまうことがその一つです。

### マタニティ・ブルーズ

**妊** 娠している時期や出産後は、気分の変化が激しくなったり、落ち込んでしまったりすることがあります。育児などに対する不安が強くなっているだけなのか、とつい考えてしまいがちですが、そこには「たいへんなころの病気」が隠れている可能性があります。

たとえば、マタニティ・ブルーズ(出産直後から1週間ごろまでに見られる一過性の気持ちの落ち込みや涙もろさなど)は日本人の産後の約30%に、そして、産後のうつ病は約10%の女性がかかっています。うつ病がわかっていきます。つまり、出産前後に精神的に不安定になることは、決してめずらしいことではなく、誰にでも可能性があることなのです。

何となく体調がおかしい、気分

がすぐれないといった、マタニティ・ブルーズの兆候(下表参照)に気付くことがあるかもしれません。

そんな時は、まずは好きな音楽を聞いたり、ゆっくりお風呂に入ったりして心と体を休ませてください。そして、ご家族とお話をして、育児に参加・協力してもらってください。もちろん、当院の産科医師や助産師、臨床心理士などの専門スタッフにもお気軽にご相談ください。

### 当院のサポート体制

**た** だし、実際にはご自身が相談にいらつしやるケースというのはそう多くはないのが現状です。そのため当院では、産科医師、看護スタッフ、臨床心理士、ソーシャルワーカーがチームとなって産前から産後までサポートしています。また、小児科の受診で来院された時には、産後の入院時に担当することもある看護スタッフが小児科外来を担当することで、産後の小さな変化にも気付くことができるように努めています。

私たちはご家族や周りの方々と同様に、皆さんの育児を応援しています。いつでもご相談ください。

(表) マタニティ・ブルーズの兆候

- いつも疲れているような気がする
- あまり眠れない
- 何かに対して不安な気持ちになることがよくある
- 将来に対する希望がもてない
- 集中力や記憶力が弱くなったと感じる
- 自分を責める
- 食欲がなくなる
- 子どもや家族に愛情がもてない
- わけもなく涙もろくなる
- 無性に不安な気持ちになる
- イライラして怒りっぽくなる など



どんなことでも不安に思ったらお気軽に当院まで相談してください



第2回目になります。とっけましレポ  
今回は血液製剤をつくま現場に  
お邪魔して参りました!!  
毎日たくさん患者さんを救っている  
血液製剤...そのプロセスは、  
愛と生命の神秘にあふれていました。



# 行け! JDLポタポタ★日赤とっけまレポ

～日赤血液センター製剤部門編～

案内して下さい方たち



簡易白衣を  
着用し中へ...



ポイント1  
東京・千葉・山梨の  
献血ルーム・南沢血バスから  
運ばれてくる!

ポイント2  
このフィルターで  
白血球の大部分を  
除去!!



ポイント3  
超高速回転す!  
(×1分間に約4000回!)

まるで  
我が子を送り出す  
気持ち...?



ポイント4  
製剤と検査を  
同時に行っているため、  
検査に合格した血液  
だけが出荷される!

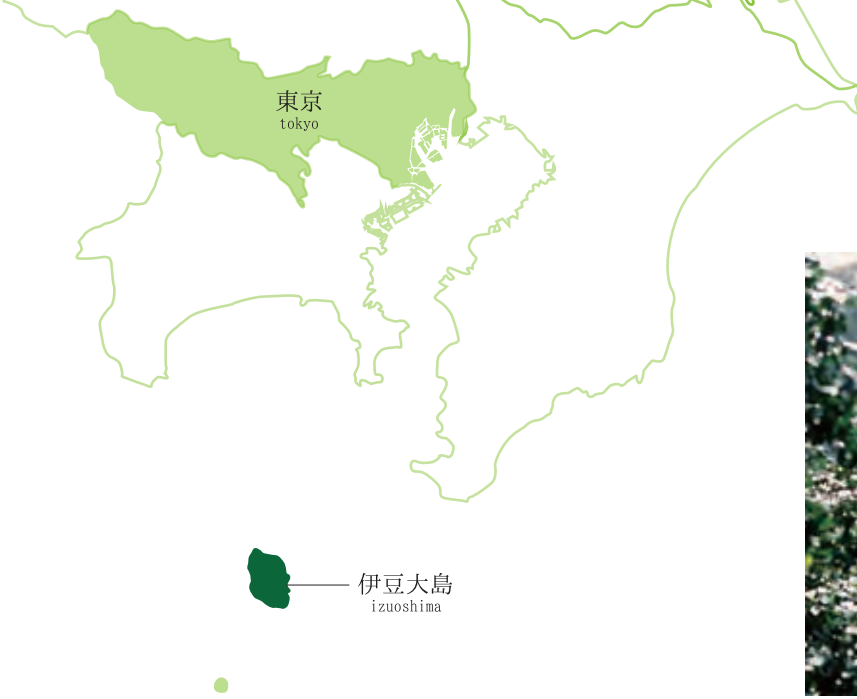


END









伊豆大島  
izuoshima



# Rediscovery TOKYO

東京を、再発見しよう



大島 × 赤十字 × 福島 「忘れない」写真がつなぐ記憶と記憶—

2016 年は、伊豆大島土砂災害から 3 年という節目の年。そして、東日本大震災から 5 年という年でもあります。復興に向け私たちができることの 1 つは、被災地のことを忘れないこと。その思いから赤十字は、伊豆大島と福島の高校生がそれぞれの被災地でお互いの体験を共有する写真を通じたワークショップを行います。開催は今年 2 月。その様子を、次号NTでお伝えします。

## + 東京観光写真倶楽部 TOKYO SIGHTSEEING PHOTO CLUB

写真とはまさに「光を観ること」。東京を＜観光＞しながら撮影を楽しむことを目的とし、2005年に発足した同倶楽部は、東京諸島を含む都内各地で撮影会を開催している。部長を務めるのは、日本赤十字社専属カメラマンである菅原一剛氏。今号より、東京の写真の撮り続けている同倶楽部とコラボレーションした連載を開始します。

東京観光写真倶楽部 <http://tokyophoto.ne.jp>  
菅原一剛 HP <http://ichigosugawara.com>

東京観光写真倶楽部 10 周年記念写真展「私の東京諸島」 2.6(sat) ~ 14(sun) <http://www.tokyophoto.ne.jp/shoto>

## 第1回 伊豆大島

東京・竹芝からジェット船で 1 時間 45 分。島というと途方もなく遠いイメージだが、伊豆諸島最大の島「伊豆大島」は驚くほど近い。島を象徴する花、椿は品種の多い花として知られ、島内では約 450 品種の椿を見ることができる。ここでの椿は生活に密着する花として大切にされていて、畑と畑の間に植えられていたり、防風林として利用されたりもしている。島の人たちは、春になると椿と大島桜と一緒に咲くのを見て、ひとときの特別な花見を楽しむそうだ。そのようなことから、椿は島の人々にとって特別な花であることが強く感じられた。

わたしたちはいつも、自分が住むまちをどれだけ意識して見ているでしょうか。まだまだ知らない東京というまちのすがた。写真を通して気づく東京の魅力を、ぜひ見つけてみてください。



# 日本の引越業界 引越件数 引越売上 No.1

2年連続

引越一筋 45 周年

サカイの  
お引越特典

● 訪問お見積にお伺いの際に  
「ひとめぼれ1kg」  
プレゼント



● 引越基本料金の**20%割引**

※3/15~4/15 は対象外

● 荷造り用ダンボール箱

大小2種類

**最高50箱まで無料**

● ハンガーケース

**5箱まで無料リース**

● ダンボール回収

**1回無料**

※3/15~4/15 は対象外



売上の一部は日本赤十字社の  
活動資金として寄付されます

日本赤十字社の広告を見たとお伝えください

お問い合わせは

株式会社 **サカイ引越センター**

受付時間 9:00~19:00(年末年始休)

受付コールセンター

 **0120-72-0041**

E-mail : h.callcenter@hikkoshi.sakai.co.jp